

ツインスパーク
好き、スパーク
小誌、編集長の
プレラ評の

TEXT:
YOSHIHIKO
NODA
[野田義彦]
PHOTO:
HIROTO
MARUYAMA
[丸山博人]

ALFA ROMEO BRERA 2.2 JTS



アルファ・ロメオが誇る最新の超高級スポーツカーというと、昨年の秋に500台限定で登場したAlfa 8C Competizione(アルファ 8C コンペティツィオーネ)が相応しいのかもしれない。搭載される4.7リッターV8ユニットが450馬力を叩き出すまさにモンスターだ。しかし、すでに完売となっているらしいし、正当な価格の中古車なんてたぶん世界中を探しても見つからないだろう。つまり、乗りたくても買えないのが現状である。そこで紹介するのは、現行ラインナップでアルファ・量産スポーツカーの頂点に立つブレラである。

今回の特集には、フェラーリやボルシェ911のライバルとなる新車価格が1000~3000万円級、中古車でも700万円以上が平均価格帯となる豪華なスポーツカーたちが居並ぶ。価格やスペックだけで考えるとブレラは格下になるだろう。でも、アルファには「この人クルマが好きなのね」と、「フェーリスター」や「ボルシェ乗り」を納得させてしまうだけの力がある。これって、アルフィスタだけが持つ特権みたいなものだ。

クルマ好きなら、動力性能だけでは計れない乗り味の奥深さを知っているからである。さて、ここでは特集内で唯一の“4発”となる2.2 JTSを紹介しよう。

ツインスパークとJTS

タイトルからもお分かりいただけるように、僕は147や156の中期型まで搭載されているツインスパーク・ユニットの大ファンだ。プライベートカーも2年ほど前まで147を所有していた。ツインスパークとは、その名の通り気筒あたり2本のスパークプラグが与えられているエンジンの名だ。低速からモリモリとトルクが湧き出てくるとか、レスポンスがシャープといったタイプではないのだけれど、吹け上がる時の回転フィールとサウンドには、このエンジンでしか味わえない気持ちよさがある……。そんな褒め言葉が出てくるのも惚れた弱みからだろうか。よく「もっと踏めとエンジンが誘う」と言われるが、個人的には違うと思う。踏まな

れば、高回転を使わなければ、思い通りの加速が得られないのである。気を抜くと信号グランプリでトヨタ・プロボックスに負ける。まっ、一気にシューンとはなく、ジワッーと盛り上がるからドラマチック!ちょっと病的か……。

で、02年に156の後期型に採用されたのがJTS(Jet Thrust Stoichometric)。ツインスパークの後継となる直噴式のユニットだ。こちらも、昨年の夏に156 TI 2.0JTSを購入してしばらく乗ってみたものの、僕の波長とはまったく合わなかった。ツインスパークに比べると、低回転から充分なトルクが提供され、レスポンスもシャープに





2006年春に上陸を果たしたアルファ・ブレラ。試乗車に搭載される2.2ℓ直4ユニット(185ps/23.5mkg)の他に、3.2ℓV6(260ps/32.8mkg)も用意されている。後者は4WDが採用され、6段MTの他、今年の3月にはQトロニックと呼ばれる6段ATも追加設定された(2.2ℓは6段MTのみ)。全長4415×全幅1830×全高1365mm。車両協力：アルファ・ロメオ田園調布アップロードカーセンター(06年式 アルファ・ブレラ・スカイウィンドー2.2JTS 走行4000km 価格399万円) Tel.03-3721-1565

なって一気に近代化が図られていたのだけれど、エンジンの鼓動がダイレクトに感じられなくなっていた。また、静粛性が高いかという、そもそもなかったから中途半端な気もした。

生まれ変わったJTS

さて、今回初めてブレラ 2.2 JTSに試乗する機会を得た。乗って落胆したらどう原稿を書こうか？なんて思いながら出発したが、環状8号線を走り出してすぐに2リッター版とは別モノの回転フィールに驚くことになったのである。アイドリングから伝わってきたあの独特の振動は見事に抑えられていて、低回転での静粛性も格段に向上している。かといって、高回転の感触が味気ないのかというと、まったくそんなことはない。3500rpmあたりから粒が揃ってく

るフォーンという快音とともに、硬質で密度の濃いフィーリングを与えてくれる。156が積んでいた2リッター版はツインスパークの影を引きずっているようなところがあって、逆にアルファらしさが薄れていたけれど、ブレラに搭載される2.2リッターは、キツパリ割り切った新しい“4発アルファ”の味を作ってくれていた。

185ps/23.5mkgというスペックは、ちょっと頼りなく感じるかもしれないけれど、実際走らせてみれば動力性能にまったく不満はなく、想像以上に元気に走れる。

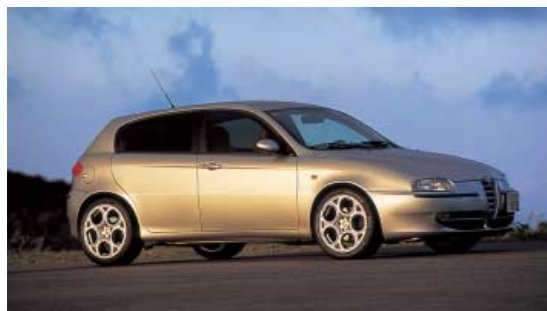
デモカー出身車両が狙い目

ブレラの中古車価格に触れておこう。上陸からまだ1年あまりしか経っていないため、流通量は少ないようだ。2.2は400万円前後、3.2は500

万円前後が目安になる。4～5月あたりに、デモカーの入れ替えを行なうディーラーが多いので、いまならデモカー・アップの車両が狙い目だ。

試乗車はまさにそんな車両で、アルファ・ロメオ田園調布アップロードカーセンターの展示場で見つけた06年式のスカイウィンドー 2.2JTS。走行4000kmで399万円のプライスボードが掲げられていた。セット・オプションのボルトローナフラウ製・レザーシートやキセノンヘッドランプなどが装着されているからかなり買い得だと思う。

ジウジアーロの手になる個人的なスタイリングとアルファらしいエンジンの回転フィールを持つブレラ 2.2JTS。ツインスパーク好きの皆さんもぜひ試乗してみることをお勧めしたい。僕もツインスパークファンだが、“4発”のブレラはYESだ。



筆者はこれまで2台のアルファを所有してきた。左は2年ほど前まで持っていた147 2.0ツインスパーク・セレスピード、右は3か月くらい前まで所有していた156 TI 2.0JTS。ご覧のように147は調子に乗ってローダウンサス+17インチタイヤ+GTAホイールを装着するという無謀なモディファイを施したのだから意味不明な乗り心地になっていた。とにかく、ツインスパークとセレスピードを組み合わせた147は名車だと思っている。

